

福島県で新施設が本格稼働

双葉運輸 プラ等から固形燃料を製造

双葉運輸（本社・福島県大熊町、吉岡康広社長、☎0240・32・2561）は今年6月、本社敷地内で、有価で購入したプラスチック等を加工して固形燃料を製造する施設の

本格稼働を開始した。マットレスやソファなど、用途を終えた大型物も処理できる破砕装置や光学選別機、圧縮成形機などを導入している。1時間当たり2トンの固形燃料を製造できるプラントとなる。

このプラントでは、金属が交ざったプラスチックや処理が難しい大型物などのさまざまなものを受け入れ、燃料として使いやすい形状・性状に加工する。2軸破砕機で処理した後、光学選別機にかけ、塩素濃度等を基準として処理物を選び分けることで固形燃料の原料となる品質の高いプラスチックを取り出す。その後、産業廃棄物の中間処理業者が構築するRPF製造プラントと同様の圧縮固化装置によって、高い熱量を有する固形燃料を製造するプロセスだ。

同社は一般・産業廃棄物の収集運搬や各種産業の中間処理、自動車リサイクル事業や廃電線のリサイクル加工といった資源回収事業を営んでおり、排出物の取り扱いや選別などのノウハウを有している。今後は自治体や清掃工場等にも提案を行う。吉岡社長は「マテリアルリサイクルには向かないが、廃棄物として取り扱う必要がないプラスチックなどを積極的に引き受けて有効活用していきたい」と述べている。



大型物も処理できる2軸破砕機



固形燃料製造装置